

17 県内総合

第3種郵便物認可

親和木材工業、2×4材の耐力壁試験 県産スギ強度、基準の5倍

親和木材工業(各務原市須衛町)は、県産スギで試作したツーバイフォー(2

用途拡大へ商品化進める



専用の機械で強度を測定される県産スギで試作した耐力壁＝美濃市曾代、県立森林文化アカデミー

県森林研究所の支援を受けて実施。建築基準法が定める基準値の5倍以上の強度が確認でき、柔らかいスギ材でも十分活用できることが分かった。今後、商品化を進める。

試験をしたのは同社が加工した横幅1・8尺、高さ2・5尺、厚さ約15センチの壁。アカデミーのオープンラボ棟にあるせん断試験機を使って壁を押ししたり、引いたりして強度を測った。

近年、直径30センチ以上の太いスギが増加。直径が大きすぎると機械を使った加工が困難になるため、量産志向の大手は使うのを避ける

傾向にあり、利用が進まない現状がある。

同社は、これら太いスギの有効利用策を探ってきた。ツーバイフォー工法は北米発祥で、木材も北米の材が使用されることが多いが、県産スギに置き換えることができれば、さらにスギの用途が広がると考えた。

試験後、同社の古田剛士総括管理部長は「スギは弱く柔らかいといった認識があったが、今回の実験で商材として安心して出せることが分かり、うれし」と話した。

(佐名妙予)